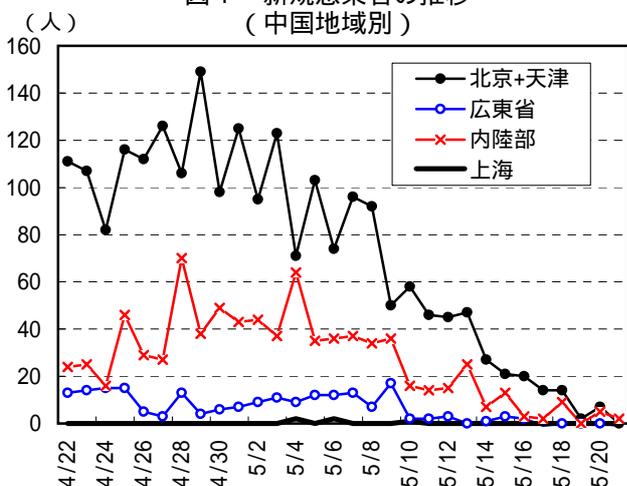


中国経済への新型肺炎(SARS)の影響

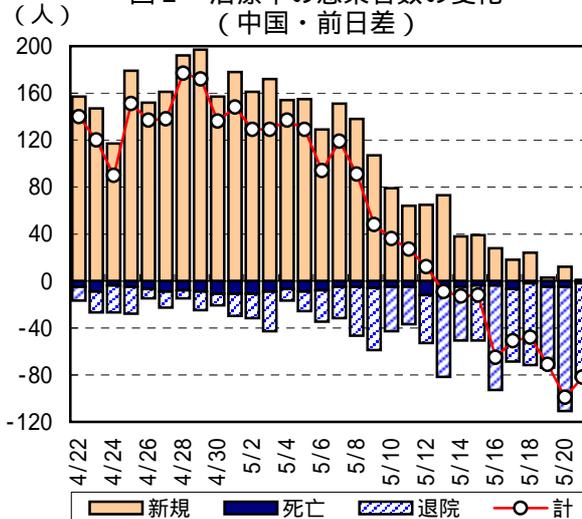
- ・ 新型肺炎(SARS)の感染拡大による中国経済への影響が懸念されている。運輸、観光産業、小売業などでは、既に直接的な影響が表れている。しかしながらGDPの44%(01年)を占める工業では、外資系企業による新規生産の延期や一部の操業停止もみられるが、既存工場の閉鎖などの事態には至っていない。これは生産が集中している上海・江蘇省・浙江省(工業の22%、01年)でSARSの感染が少ないことが一因と考えられる。
- ・ 現在、広東省ではSARSは山を越えたとみられており、感染者が急増した北京や内陸部でも新規感染者は減少傾向にある(図表1)。治療中の感染者も減少しており、中国におけるSARSの収束が期待されている(図表2)。一方、台湾ではこのところ院内感染を中心に感染者が増加しており、今後の動向が懸念される(図表3)。
- ・ SARSは豊富な労働力など中国経済の強みを失わせるものではないため、SARS拡大にも関わらず、4月の中国への直接投資は前年比37.2%の拡大となった。また、最近の中国経済の牽引役である固定資産投資も4月は28.8%の伸びとなった。このため、SARSによる成長率見通しの下方修正は、香港やシンガポールに比べて中国では小さいと考えられている(図表4)。

図1 新規感染者の推移 (中国地域別)



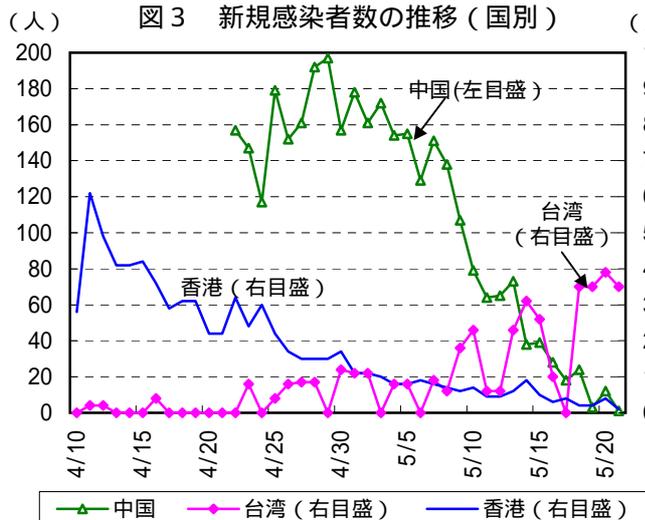
(備考) 1. 中国衛生部発表資料により作成。
2. 内陸部は、内モンゴル、山西省、河北省の合計。

図2 治療中の感染者数の変化 (中国・前日差)



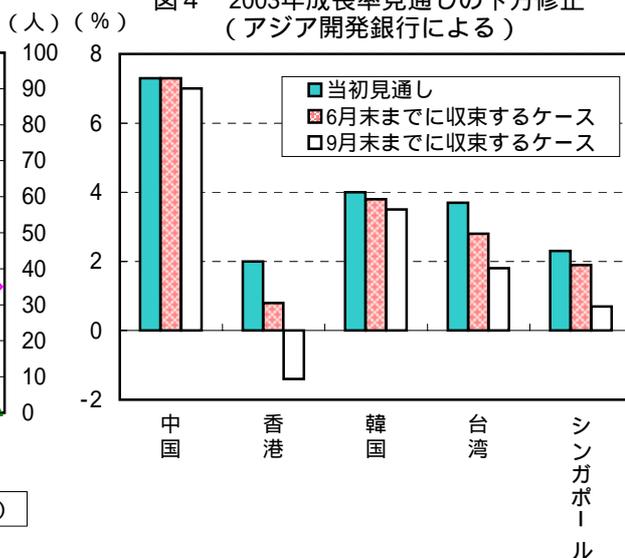
(備考) 中国衛生部発表資料により作成。

図3 新規感染者数の推移 (国別)



(備考) 1. 中国衛生部、WHO発表資料により作成。
2. 2日分まとめて新規感染者数が発表された場合は、それぞれの日に2で割った数をあてはめた。

図4 2003年成長率見通しの下方修正 (アジア開発銀行による)



(備考) アジア開発銀行資料(5月9日付)により作成。